

演 題

デジタル技工の基礎と応用

三輪武人

抄 録

近年、さまざまな業界においてデジタル化、オートメーション化が進展しています。歯科業界でもその潮流が間違いなく訪れており、ミリングマシン、3Dプリンターを活用した補綴装置の製作は特別なことではなくなりました。当技工所においては現在、全受注の3割を口腔内スキャナーデータによるオールデジタル技工が占めています。

様々な情報が溢れるなかで、いつ、どの機器を導入するのが正解なのでしょう？非常に悩ましい課題ではありますが、私たちの技工所ではアンテナを張り続け、最新情報を逃さず、必要な情報を見極めて進んでいくことを試みています。

技工所は、これまでの手作業による熟練技術を活かすとともに、デジタルソフト、デジタル機器の細かな機能を熟知し、技工物製作へ反映することが今後のキーポイントと考えます。本講演では、当社で行なっているデジタル技工についてお伝えいたします。

演 題

「歯科技工士のタスクシェア/シフトを考える」
～顎位の変化に対するスプリントの製作から～

田村 和生

抄 録

現在、一般社団法人千葉県歯科医師会では「歯科技工士の人材確保対策事業」を厚生労働省より委託を受けて行っている。その中でも、令和3年度より「シンポジウム」を数度開催し、歯科技工士が歯科医師の「診療補助」を出来るようにすべきとの意見が出ている。

これからの超高齢化時代を迎えるにあたり、適切で今よりさらに高度な治療を短時間・短期間に施さなければならない場合がある。

これまでもチーム医療として「歯科医師」「歯科衛生士」「歯科助手」と「歯科技工士」が一丸となって取り組んでいたと思う。

しかしながら、歯科技工士は診療に携われない事から必要な資料、そして分析を行えないことが少なくない。そこで院長の監督の下、行った患者の資料採得、分析、治療方針の提案などをお話ししたい。

臨床例として、高齢者のかみ合わせ変化に伴うスプリント製作を例にとり、歯科技工士の診療補助の一例を垣間見て頂ければ幸いである。